熟練した歯科医師による限られた視野での手術映像をとおして
インプラント治療の実際を学ぶ

「DVD　術者の視野で見るインプラント治療 1 Step by Step 下顎遊離端欠損」

■武田孝之 編著・井上敬介 著
■ A4 変形判／ 93 頁
■ DVD ビデオ／約 59 分
■定価：本体 12,000 円＋税 5%
■医歯薬出版株式会社 刊

●術者の視線を追った インプラント治療を供覧

現在，インプラントに関する情報は多々あるが，基本術式についての情報は少ないように思われる．そこで本書では，埋入計画の立案からインプラント補綴の術式，術後ケアといった治療の一連の流れを，咬合崩壊の端緒となりえる下顎遊離端欠損1症例に絞り，解説を行う．特に本書では，付属DVDに収められている手術の撮影方法に注目したい．わが国におけるインプラント治療の権威である武田孝之氏の監修のもと，井上敬介氏が行った埋入手術の模様を術者の視点・視野で追うことで，形式的なマニュアルでは感じることのできない臨床の難しさを実感することができる．歯科医師の術前シミュレーションツールとして，また歯科技工士がチェアサイドでのインプラント治療の実際を学ぶ手段としておおいに役立つであろう．

●確かなコンセプトに則った 治療計画の立案・術前準備

第1章では，診査・診断からサージカルガイドの製作・試適まで，術前に必要な工程を整理する．全身の健康状況や心理的状態を含めた総合的な情報から，インプラント治療の妥当性を考えたうえで治療計画を立案し，患者の同意を得ることが治療の起点であるという．そしてその後は，視診や触診，画像診断などをもとに術式を綿密に考え，手術当日にできる限り予想外の不具合が起こらないような状況を構築する方法が示される．

本書では，インプラント治療を「術者自ら病態を作り上げる治療法」と捉え，手術による創傷が慢性炎症にならないようなリスク管理が必要であると訴える．インプラント治療を成功に導くためには，口腔内を機能的かつ審美的な状態に維持することが重要であり，歯科技工士にはそれを阻害しないような補綴物製作が求められている．筆者は製作者としての責任の重さを痛感した．

●実際の術野に基づく動画から 治療の難しさをうかがい知る

第2章では，実際のインプラント体の埋入手術について解説されるが，ここでも本書の特徴が活かされ，前章同様，術前の準備から埋入までを文章で紐解き，切開部分からはDVDの動画とリンクする．

前述のように，この動画では実際の術者（井上氏）の視点で手術を追っているが，驚くべきはその視野の狭さである．インプラント手術を紹介する従来の動画では，見やすさに重点を置いて本来より広い視野で撮影されており，インプラント手術に対して比較的簡単なイメージを抱いてしまいがちであったが，本動画でその感覚は間違いであったことに気付かされる．そして，非常に限られた視野の中で，開口量や隣在歯によって手術器具の使用が制限される困難な状況などをも疑似体験できる．歯科技工士にとっても，術者の視野を確認することで，普段の技工作業で考慮すべき点を見出すことができるのではないだろうか．筆者は治療の過程でインプラントの埋入手術に立ち会うことがあるが，以前から現場でしか感じることのできないものが多くあると考えていた．本書はその一端を体験できるものである．

本書の症例では，綿密に計画された手術にもかかわらず埋入位置に若干のずれが生じてしまう．そこで，その原因と対処法が示され，読者は基本に忠実であることと確認を怠らないことの重要性を再認識できる．このように計画と実際のずれを偽ることなく紹介していることからも，本書がインプラント治療を正しく伝えるための書であることがうかがえる．

●高い精度が求められる 上部構造製作の注意点とは

続く第3章では，印象採得から上部構造の製作・装着までが詳説される．インプラントは天然歯と異なり，咬合圧の緩衝作用と防御反射を促す役割を持つ歯根膜をもたないため，より高い精度が求められ，本章でもそこに重点を置いた注意点が示される．高精度なインプラント治療の困難さを歯科医師・歯科技工士がともに深く理解し，本書で紹介されているステップを確実に実践することが重要であると筆者は思った．

＊　＊　＊

補綴治療としての有効性は高い一方，神経損傷などリスクも伴うインプラント治療（手術）の実際を術者の視点から擬似体験できる意義は非常に大きく，インプラント治療に関わるすべての医療従事者に勧めたい一冊である．特に歯科技工士にとってチェアサイドでの術式は“ブラックボックス”の部分が多く，本書はそれを解き明かす貴重な情報源となろう．

本書は下顎遊離端欠損症例のみを取り上げているが，臨床ではさまざまなケースが存在する．続刊として「下顎無歯顎の即時荷重」が今秋に発行されるほか，上顎無歯顎症例なども順次刊行予定である．

（千葉県松戸市・協和デンタルラボラトリー／木村健二）